

A評価！（全国5位相当）

長崎東高校は平成27年度より5年間の予定で文部科学省のSGH事業に指定されています。これまでの2年半の取組について文部科学省より「中間評価」が発表されました。平成27年度に指定された全国56校は6段階で評価され、**本校は上から2番目（A評価）の素晴らしい評価**をいただきました。以下は文部科学省の評価です。

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」

- 長崎に視点をおいて課題を探究するナガサキタイムの設定など計画通り進捗しており、各取組いずれも質の高い活動が行われていることは高く評価できる。
- また、長崎大学、長崎県立大学との連携も進み、実質的なプログラム構築が進んでいる。今後、連携先拡大や中学との連携によるSGHジュニア等の取組で、非対象生への成果普及にも期待したい。
- なお、個々の活動間のつながりがやや弱いこと、テーマの一貫性が十分ではないように思われること、外部講師への依存度が大きい点については改善が望まれる。

みなさんの研究への取組、主体的な学習（アクティブラーニング）、アンケートによる自己評価、GTECやGPSテストの結果などが高い評価につながりました。これからも連携していただいている様々な方、協力していただいている先生方に感謝し、「チームひがし」でグローバルな社会課題の解決に取り組んでいきましょう！

「SGH全国高校生フォーラム」で発表！

11月25日（土）横浜市のパシフィコ横浜にて、高校3年国際科の平井里佳さんが英語によるポスターセッションを行いました。全国から約130校が参加し、4分間の発表と4分間の質疑応答（いずれも英語）を2回実施し、課題研究の成果を披露しました。平井さんは「長崎原爆に関する歴史認識」について研究し、平和副教材をニューヨーク国連本部へ寄贈した経緯について発表しました。広島県の高中生や英語ネイティブの先生方など数十名の聴衆に流ちょうな英語で研究班の思いを伝え、矢継ぎ早の質問にも的確に応答しました。先日中学2年生と3年生に講話していただいた郷農彬子様も応援に来てくださいました。平井さんは「**自分が言いたいことを伝えることができ楽しかった。修学旅行が重ならなければ来年はぜひ2年生が参加して、さらに自分自身を成長させてほしい。**」と語ってくれました。



会場のパシフィコ横浜



英語によるポスターセッションの様子
他県の生徒や先生方からも高い評価をいただきました。